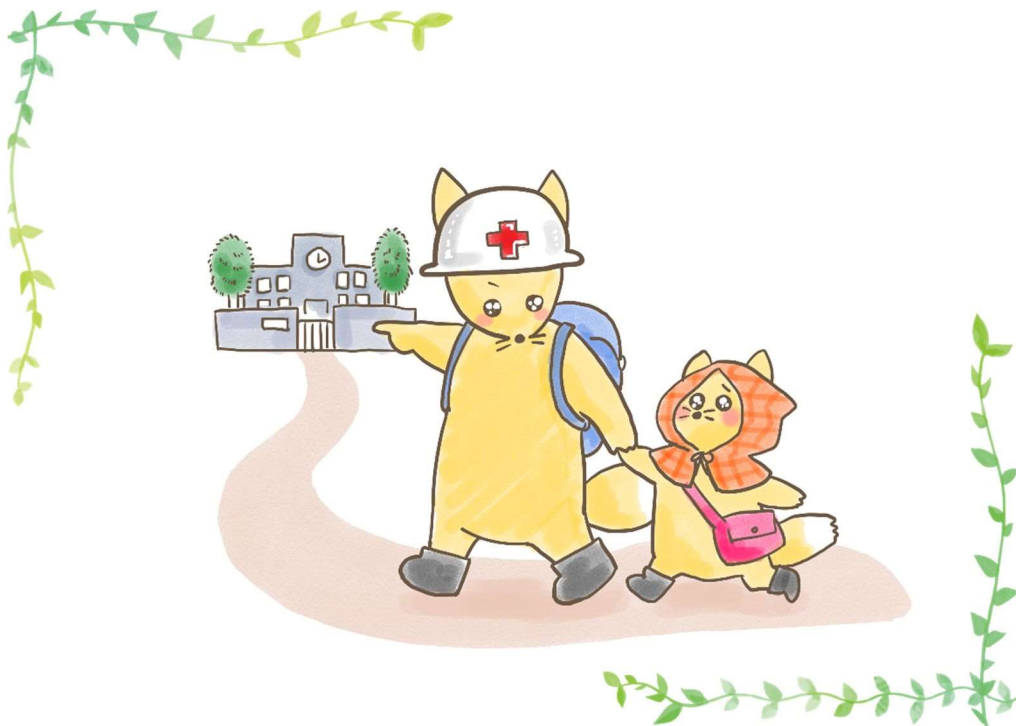


第5章 推進施策と主な取組



この章では、第4章で設定した基本目標に向けて推進する各種施策と主な取組、チャレンジ項目について定めています。

◆◆ チャレンジ項目とは ◆◆

第2次半田市地域福祉計画の計画期間（令和3年度～令和7年度）において、実現可能性の有無にかかわらずチャレンジしたいと考える先進的取組であって、その取組が実現することで半田市の地域福祉が大きく前進すると考えるものです。



基本目標1	ささえあいの地域づくり
--------------	--------------------

評価指標	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
「ふくし井戸端会議」参加者数	565人/年	800人/年
「災害時避難行動要支援者名簿」を活用した防災訓練実施件数	2件/年	7件/年

推進施策(1) 地域福祉活動基盤の発展推進

■ 概要 ■

地域住民と市・半田市社会福祉協議会*（以下「社協」と言います。）・関係機関がともに地域の課題について協議等する「ふくし井戸端会議」、住民交流拠点の「地域ふれあい施設」や「地域サロン」、住民同士の助け合い組織である「お助け隊」、民生・児童委員や保護司等による地域に根ざした福祉相談や援助活動、福祉事業所等による地域貢献活動等、これまでに築かれてきた本市の地域福祉活動基盤はそれぞれ活発に運営・活動が続けられており、まさに本市の誇りであると胸を張ることができます。

一方、一部の拠点や組織では運営スタッフの高齢化や担い手不足が課題となっており、また、近年、地域生活課題が以前に増して複雑化・複合化する中で、民生・児童委員等の負担が増えていることも懸念されています。

地域住民と市・社協・関係機関のさらなる連携・協力により、地域福祉活動基盤の運営継続と発展を推進します。

■ 主な取組 ■

① 地域福祉課題の共有と解決に向けた協議の場づくり

本市では、従来から、地域住民と市・社協・関係機関がともに様々な課題を共有し、解決に向けて話し合う場として、「ふくし井戸端会議」を開催してきました。過去のふくし井戸端会議での協議等により発足した「地域サロン」や「お助け隊」も多く、ふくし井戸端会議はまさに本市の地域福祉の原点であると言えます。

今後も引き続き、ふくし井戸端会議等、地域の課題を共有し解決に向けて協議を行う場の創出に取り組みます。

② 地域の住民交流拠点・助け合い活動の発展推進

引き続き地域住民と市・社協・関係機関が連携・協力し、住民交流拠点や助け合い組織の運営継続と活動発展に取り組みます。

また、今後は、地域社会とのつながりの場となる拠点・組織として、地域住民のさらなる参加促進を図ります。

③ 民生・児童委員、保護司等の活動推進

少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境の変化等により地域生活課題が複雑化・複合化する中で、地域に根差して社会福祉増進に努める民生・児童委員や、犯罪予防と再犯防止に努める保護司及び半田更生保護サポートセンター※などの活動を市・社協が連携してささえ、福祉相談や援助活動等の推進に取り組みます。

推進施策(2) 防災・減災の推進

■ 概 要 ■

近年、全国各地で地震や豪雨などの大規模災害が発生しています。本市においても南海トラフ地震等の発生が危惧される中で、地域における防災・減災体制の充実を急ぐ必要があります。

そのため、いざというときに住民同士が互いにささえあうことができるよう、日頃から地域の中で顔の見える関係を築くとともに、高齢者・障がい者・乳幼児・妊婦・外国人等の避難行動や避難所生活に支援・配慮を要する方を地域でささえる体制づくりなどを推進します。

■ 主な取組 ■

① 災害時避難行動要支援者支援制度の充実

地域における防災・減災意識の向上を図るとともに、高齢者や障がい者等の避難の実効性確保に向け、災害時避難行動要支援者名簿※を用いた避難訓練などを実施する自治区等の拡充を図ります。

また、実際に大規模災害が発生したときの避難支援がより効果的なものとなるよう、名簿活用の方策検討や名簿情報の追加等に取り組みます。

② 福祉避難所等の整備推進

要配慮者※が安心して避難所生活を送ることができるよう避難所における支援体制の整備充実を図るとともに、高齢や障がいのために専門的支援を要する場合は、福祉事業所等の協力を得て福祉避難所の開設等を行い、生活相談支援や日常生活支援等を実施する体制の整備に取り組みます。

チャレンジ項目



- 小学校区コミュニティや自治区等の役員としての福祉委員等設置・組織化
- 地域貢献活動等を行う福祉事業所、企業等の拡充と連携体制整備
- 外国籍市民の地域活動参加の仕組みづくり
- 地域における要配慮者理解のためのふくし共育の実施
- 災害時避難行動要支援者名簿の平常時からの提供先拡大と各支援者の連携体制整備
- 福祉事業所等の地域防災訓練参加促進
- 指定避難所における要配慮者のための災害時福祉スペースの確保

コラム

④

障がいのある方も“防災・減災の推進”に貢献

全国各地で大規模な自然災害が発生していますが、半田市も巨大地震や豪雨により被災する危険性が高いと言われています。

東南海地震や伊勢湾台風等の過去の災害を教訓に、防災活動や避難所訓練に尽力されている地域住民は少なくありません。そんな中で、障がいのある方々もそれらの活動に参加され、災害時に支援・配慮を要する方の立場に立った助言を行って来ています。何でもない段差が車いすを利用されている方にとっては大きなバリアになってしまう…というように、実際に体験してみないと分からないことがたくさんあることに気付かされます。

いつかは半田市にも必ず来ると言われている大規模災害。大難が小難に、小難が無難になるように防災・減災の準備を進めていきたいものです。



コラム

⑤

防災訓練から「ふくし」を学ぶ！



令和元年11月、半田中学校を避難所とする防災訓練（半田市総合防災訓練）において、中学生が近所に住む高齢者のお宅を訪問し、高齢者の生活状況や災害時の備えなどを聞き取るとともに、防災訓練への参加について呼びかけを行いました。

訓練後の振り返りや中学生へのアンケートから、「自分たちが生活する地域には高齢者や子どもなど多くの住民がいること」、「日頃から顔を見知っていることが有事の際の行動につながること」、「平常時や災害時に自分たちができること」などについて学んでもらえた様子です。防災訓練や災害という視点から、地域のつながり・日頃のささえあいの必要性を感じ取ってくれたようです。

基本目標2

包括的・重層的・伴走的な相談支援

評価指標	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
「にじいろサポーター養成講座」受講者数	延べ288人	延べ500人
「くらし相談室」自立支援件数	238人/年	300人/年

推進施策(1) ふくし相談窓口等の拡充

■ 概要 ■

本市では、従来から、市民相談ボランティアの「にじいろサポーター」を養成するとともに、住民に身近な地域で、どんなことも気軽に相談等できる「ふくし相談窓口」の整備を進めてきました。

今後は、より一層、地域住民にとって相談しやすい環境づくりや相談者の気持ちに寄り添った対応、適切な支援機関への連携・連絡などを実践することにより相談機能の拡充を推進します。

■ 主な取組 ■

① 地域の身近な「ふくし相談窓口」等の拡充

複雑・多様な課題や不安を抱える方の早期発見と適切支援に向けて、地域住民や関係機関との連携・協力を深めながら、引き続き「にじいろサポーター」の養成や「ふくし相談窓口」の整備を進め、相談機能拡充に取り組みます。

推進施策(2) 相談支援機関の連携強化等

■ 概要 ■

高齢、障がい、ひとり親、生活困窮その他あらゆる福祉分野の相談支援の充実を図るとともに、複雑・多様な課題や不安を抱える方を包括的・重層的・伴走的に支援するため、相談支援機関のさらなる連携強化を推進します。

■ 主な取組 ■

① 相談支援機関の連携強化

相談支援機関相互の連絡を密にして支援対象者の生活状況、生活課題、支援内容その他の情報を共有し、必要な支援が確実に支援対象者に届くよう相談支援機関の連携強化に取り組みます。

② 就労・住まい・移動等に関する支援の充実

就労や住まいに関すること、また、買物や通院のための移動手段に関すること等は健全な市民生活を送る上での基盤であることから、幅広く関係機関と課題を共有し、連携して支援の充実に取り組みます。

推進施策(3) 生活困窮者等自立支援の充実

■ 概 要 ■

本市では、複雑化・複合化した課題を抱える生活困窮者への包括的支援を目的として、平成27年度から生活困窮者自立相談支援事業を開始し、生活困窮者への相談支援を実施しています。

当事業により、これまで支援につながっていなかった方や縦割りの福祉制度の中で埋もれてきた方への支援が進みつつあります。しかしながら、未だ就労や家庭の問題につまずいている方、社会的に孤立している方、困窮家庭の子どもたちなど、支援を必要とする方は少なくありません。そのため、今後も引き続き、関係機関との連携・協力の下、自立支援の充実に推進します。

■ 主な取組 ■

① 自立相談支援等の充実

広く生活困窮者の相談に応じるとともに、積極的なアウトリーチにより支援対象者を早期に発見・把握し、その方の状態や生活課題に合わせて、家計・就労・住まい・社会参加などに関する支援を包括的に実施します。

② 自殺・ひきこもり・虐待・累犯・支援拒否等困難ケースの対応充実

自殺・ひきこもり・虐待・累犯（るいはん）※・支援拒否等、簡単に解決することのできない支援困難ケースについては、支援対象者の生活課題の深刻化・長期化を防ぐため、早期の予防的支援を旨とし、関係機関相互の情報共有と連携・協力の下、包括的・重層的・伴走的に支援し、対応充実に取り組みます。

コラム

⑥

“地域福祉の原点”が120年前の半田市に!?

日本初、日本最大級の民営弱者救済施設「榊原弱者救済所」

明治終期から昭和初期にかけて、今の半田市鴉根町の丘に「榊原弱者救済所」がありました。ここで暮らしたのは、孤児、障がい者、重病者、出獄者、不幸な身の上の女性など、みんな社会から捨てられた、立場の弱い人たちです。

救済所の主宰者は、榊原亀三郎。若い頃は暴れん坊で侠客の道に入ったこともありましたが、30歳の時に心を改めると、鴉根の丘に“新しい村”をつくり、30年にわたって1万5千人もの社会的弱者を救ったと伝えられています。

年齢や性別、生い立ち、身分、境遇などで相手を差別することなく、様々な困窮者を受け入れ続けたその姿勢は、まさに“地域福祉の原点”と言えるのではないのでしょうか。

今もなお、鴉根地区を始め、半田市内に福祉事業所が集積しているのは、亀三郎の“高く尊い意志”が生き続けてきた結果と言えるかもしれません。



チャレンジ項目



- にじいろサポーターと活躍の場をつなげるマッチング・システムの構築
- 福祉事業所等による“断らない”「ふくし相談窓口」の設置・拡充
- 外国籍市民のための生活相談の実施
- 相談支援機関の連携支援事例の検証・研究会の開催
- 地域サロン等のボランティアスタッフ体験を通じた就労準備支援（生活リズムの安定、コミュニケーション訓練、自信・意欲の醸成等）の実施拡充
- 住宅確保に支援を要する方（住宅確保要配慮者）への支援充実と大家等の理解促進のための「居住支援ガイドブック」の作成・活用
- 住宅確保要配慮者が円滑に入居できる賃貸住宅の拡充
- 入居者の暮らしを見守り、困っているときには手を差し伸べる「見守り大家さん」の育成・拡充
- 公共交通空白地帯におけるコミュニティバスの導入拡大
- 住民に身近な地域での専門職による包括的相談支援事業の実施（地域住民への周知・利用促進含む。）

コラム

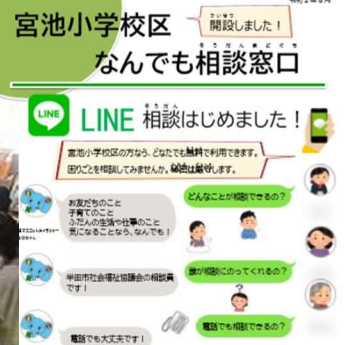
⑦

✎ 小学校が相談支援の拠点に！？

宮池小学校のコミュニティスクール活動の一環として、『宮池小学校区なんでも相談窓口』が開設されました。これは同小の学校運営協議会が中心となり活動されているもので、LINE アプリを活用した相談窓口や、教室の一部を利用した「小さな困りごとでも気軽に相談できる場」をつくる取組です。

困っていてもなかなか相談につながらない方、困っていることを人に知られたくない方、どこに相談に行ったらいいかわからない方など、支援につながらないとますます深刻な事態になってしまうことも……。

そのようなことにならないよう、誰もが安心して気軽に相談でき、必要に応じて専門の支援員へとつなぎ、困りごとの解決支援を行いたいとのことです。



基本目標3

ふくし人財の確保・育成

評価指標	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
小・中・高等(専門)学校における「ふくし共育」開催校数	17校(65%)	26校(100%)

推進施策(1) 地域福祉の担い手育成

■ 概要 ■

ささえあいの地域づくりを進めるためには、その担い手育成が欠かせません。一部の住民交流拠点や助け合い組織などでは、スタッフの高齢化等が課題となっており、新たな担い手の発掘・育成を急ぐ必要があります。

本市では、従来から市民啓発に力を注いできましたが、なお一層の啓発を図り、地域福祉に対する関心を高め、担い手育成を推進します。

■ 主な取組 ■

① ふくし理解の促進

自分たちにとって身近な「ふくし」(ふだんのくらしのしあわせ)について学び考える「ふくし共育」を幅広い世代を対象に実践するとともに、様々なテーマ・実施形態の「ふくし勉強会」を開催して市民のふくし理解の促進に取り組みます。

② 地域福祉の担い手育成

各種サポーター養成講座を開催するとともに、講座参加者と住民交流拠点や助け合い組織等の運営スタッフとの交流会を開催するなど、地域福祉の担い手育成に取り組みます。

推進施策(2) 介護人材等の確保支援

■ 概要 ■

急速な少子高齢化の進展などにより、近い将来、福祉事業所で働く介護人材等の不足することが危惧されています。介護職に限らず、福祉事業所において市民が適切な福祉サービスを受けるためには、広く福祉事業に従事する方の充足が不可欠です。

福祉事業従事者が不足することにより、市民の受ける福祉サービスが低下することのないよう、市内福祉事業所の人材確保支援を推進します。

■ 主な取組 ■

① 介護人材等の確保支援

市内福祉事業所や日本福祉大学などと連携・協力して学生向けの事業所紹介・就職マッチング等に取り組むほか、先進自治体の動向等を調査研究してその結果を事業所と情報共有するなど、幅広く人材確保支援に取り組みます。

チャレンジ項目



- 未就学児（保育園・幼稚園）を対象としたふくし共育の実施（寸劇、紙芝居等）
- 現役で働く世代を対象とした、企業等との協働によるふくし共育の実施（定年退職後の地域活動参加準備、介護離職防止等）
- 企業等で働く方を対象とした、福祉事業所等でのふくし体験イベント・研修の開催
- 福祉事業所間の人事交流促進（合同研修会の開催、職員相互派遣制度の構築等）
- 福祉事業所紹介・就職マッチング等事業の対象者拡大（中高生、日本福祉大学以外の学生、福祉系学科専攻以外の学生等）
- 福祉事業所等への職員採用状況調査の実施
- 福祉事業所等の合同就職説明会の拡充
- 外国人技能実習生（介護職種）の受入研究・検討

コラム

⑧

半田市の「ふくし」がピンチ！

福祉といえば、「優しい、共助」等のイメージがある一方で「低賃金、大変」等、ネガティブに考える方もいらっしゃいます。現在の半田市の福祉を支える現場（福祉事業所や地域）では、人手・担い手不足が課題となっています。

課題を解消するべく、行政と市内福祉事業所が協働をして令和元年度に「ウェルフェアワークス」*・「介護・ささえあい活動人材フォーラム」*を開催しました。参加事業所同士も交流ができ、事業所の実情や知らない分野・職種等の理解が深まりました。今後も継続的に開催し、外国人や復職希望者等にも参加いただける内容にしていきたいと検討しています。

また、これまで“全ての市民の「ふだんのくらしのしあわせ」の実現”のため、「ふくし共育」をはじめとした事業を実施してきました。「ふくし」が確実に市民に浸透してきていますが、今後はさらなる普及のために未就学児や現役で働いている方等の幅広い世代への働きかけにも取り組んでいきます。

※ウェルフェアワークス

大学生向けの福祉事業所紹介イベント。（福）椎の木福祉会・（福）ダブルエッチジェー
・（福）半田市社会福祉協議会・（株）エヌエフユー・半田市地域福祉課の共催で実施。

※介護・ささえあい活動人材フォーラム

介護事業所紹介・地域のささえあい活動紹介イベント。半田市高齢介護課が主催し、介護事業所・地域活動団体の協力を得て実施。

基本目標4

課題解決の仕組みづくり

評価指標	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
ふくし課題プロジェクト実施件数	—	延べ10件

推進施策(1) 課題解決の仕組みづくり

■ 概要 ■

社会情勢の変化等により生じる新たな課題や、従来から課題と認識していながら未だ有効な対応策を確立できていないものについては、その解決の仕組みづくりを急ぐ必要があります。

そのため、そのような課題については、関係機関との連携・協力の下、課題テーマに応じたプロジェクトチームを結成し、先進的な取組事例の調査研究や対応策に係る協議検討などを重ね、課題解決の仕組みづくりを推進します。

■ 主な取組 ■

① ふくし課題プロジェクト

解決すべき課題について、テーマごとに市民・行政・社協・関係機関などからメンバーを選定してプロジェクトチームを結成し、検討会議を重ねて課題解決の仕組みづくりを行います。

チャレンジ項目



○市民団体や福祉事業所等による地域福祉課題の解決に向けた研究発表会の開催

コラム

⑨

✎ “もったいない”を“ありがとう”に！

半田市社会福祉協議会では、『フードドライブ事業』を行っています。これは、賞味期限まで1か月程度の食材を地域住民のみなさんや企業・商店等からご提供いただき、フードロス問題への対応と子ども食堂等への支援を目的に活用しようという取組です。

令和2年はコロナ禍により経済的なダメージを負われた方々の支援にも有効活用させていただくことができました。

これからも「“もったいない”を“ありがとう”に！」を合言葉に、この活動を継続していきたいと思っています。

